

【小児科の特色】



○小児先端医療のプロフェッショナル

京都大学小児科では、NICU・PICUの集中治療、血液・腫瘍、免疫・アレルギー、神経・発達、循環器、内分泌・代謝、遺伝といった数多くの小児科専門分野のエキスパートを擁し、次世代を担う人材を育てる環境が整っています。

○子どもの総合診療医

子ども達それぞれを全身的に診療する小児科医には、general physicianとしての能力が求められることを重要視しており、京都府内外に存在する多くの関連病院とも連携の上、プライマリケアから集中治療・専門医療に至るまで、小児科医として必須の疾患をもれなく経験することで、疾患知識・チームとしてのコミュニケーション力・問題対応能力・安全管理能力を獲得し、家族への説明と同意を得る技能を身につける事のできる研修プログラムを準備しています。

○ワーク・ライフ・バランス

働くひとりひとりのライフステージ・イベントに合わせた働き方が選択でき、且つキャリアアップが図れるような体制を作っています。

○臨床と研究を繋ぐ physician scientist

「physician scientist」とは、臨床現場で医師として働きながら、同時に基礎研究も行い臨床と基礎の橋渡しを担う「研究医」を意味します。「Bedside to bench, bench to bedside」の理念のもと、難病・希少疾患に関する基礎研究と臨床研究を両輪として、より良い医療を現在・未来の子ども達

へ届けるべく日々取り組んでいます。

○診療科や研究室の垣根を超えた連携

総合病院，大学病院だからこその診療科や基礎医学研究室との連携が容易で、より多角的な視点から知見を得る事が可能です。

○多彩な人材によるチーム医療

看護師，保育士，チャイルドライフスペシャリスト，臨床心理士，薬剤師，栄養士，ソーシャルワーカー，ボランティア等、医師だけではない多種多様な職種から構成されるチーム医療によって、子ども達の声なき訴えを拾い上げ、包括的に子ども達を支援する体制を作り上げています。（「診療のご案内」へリンク）

○関連病院との協力

以下の関連病院と、診療・研修における密な連携・協力を行っています。（下図参照）

○その他

環境省が主導する「子どもの健康と環境に関する全国調査」通称エコチル調査の京都ユニットセンターであるエコチルどすえ@京都の基幹病院としても活動しています。

【診療グループ紹介】

○血液・腫瘍 グループ

京都大学小児科の血液・悪性腫瘍診療グループは、白血病から固形腫瘍までほとんどの小児血液・腫瘍疾患の患者さんに、質の高い医療を提供しています。日本の主な多施設臨床研究グループに属し、標準的な医療から、臨床研究まで確実に行うことが可能です。初発症例から、造血細胞移植、CAR-T 治療を必要とするような再発・難治例まで、様々な症例を診療しています。また、京都大学医学部附属病院では、肝移植・肺移植・小腸移植などの高度医療が行われており、それらと連携した診療も行っています。さらに、大学ならではの基礎研究のバックグラウンドがあり、それが医療に生かされる環境にあります。

○免疫・消化器・アレルギー グループ

喘息、食物アレルギーといったアレルギー疾患、若年性関節リウマチ、SLE 等の小児リウマチ/膠原病疾患に加えて、稀少疾患である原発性免疫不全症や自己炎症性疾患等の遺伝性疾患に至るまで、小児免疫が関与する幅広い疾患の診療・研究・教育を実施し、特に遺伝性自己炎症性疾患に関しては本邦の中心的施設として国内外へ積極的に情報を発信してきています。加えて、炎症性腸疾患、劇症肝炎等の消化器・肝疾患に対しても、内視鏡専門医を有する小児科医によって上部/下部内視鏡検査・内視鏡的治療が常時実施可能で、また、小児外科や麻酔科とも連携する事で肝生検から劇症肝炎、肝移植・小腸移植までも対応が可能であり、日本でも有数の超高度医療を提供しています。

○神経 グループ

小児神経グループでは小児の脳、神経、筋肉の分野を主に担当しています。てんかん、筋疾患、変性疾患、末梢神経疾患、先天異常症、自己免疫性疾患から、頭痛、神経発達症、起立性調節障害まで幅広い小児神経疾患の診療を行っています。特に、薬剤で発作が治まらないてんかんに対する特殊治療や、通常の検査では診断が難しい希少な遺伝性神経筋疾患の診断や診療に力を入れています。多様な病気を持った子どもたちに対して、様々な診療科と連携しながら、疾患のみならず、成長や発達を含めて総合的に支援しています。また、小児神経領域におけるまだ満たされていないニーズを満たすべく、日々研究にも取り組んでおります。

○循環器 グループ

小児科循環器グループは、生まれつき心血管に異常がある先天性心疾患患者さんの他、不整脈、心筋症、肺高血圧、川崎病などの後天性心疾患患者さんも数多く診療しております。また成人期に達した先天性心疾患患者さんのフォローや胎児心エコー、胎児不整脈や胎児心不全に対する母体治療、他疾患（新生児疾患、血液腫瘍疾患、免疫疾患、神経筋疾患、肝疾患、肝移植、肺移植など）患者さんに合併する心血管疾患の診療にも携わっております。

また京都大学病院の特徴として小児の肺移植、血液型不適合の高難度の肝移植なども行っており、小児循環器の立場から手術適応の決定や入院中、手術前後の循環管理、ICU 管理を行っております。

病院内のカバーエリアは小児科医の中で最も広く、小児科病棟(小児外科含む)は当然ながら、NICU、GCU、ICU、心臓血管外科病棟、成人循環器病棟、肺高血圧病棟、肝胆膵移植外科病棟、呼吸器外科病棟(肺移植病棟)などで診療、カンファレンスを行っています。

○代謝内分泌・NICU グループ

京滋における重症新生児の最終拠点病院として、多くの症例を診療しています。早産児はもちろん、心疾患・外科疾患の症例も多く入院し、幅広い症例を経験することができます。これまでの診療実績が認められ、2019年に京都府の総合周産期母子医療センターに指定されました。様々な国内有数の施設で学んできたスタッフがたくさん在籍しており、日々ディスカッションを繰り返しながら、京都大学 NICU 独自の診療方針を作り上げてきました。また、早産児の内分泌環境を追及することを目指し、早産児の甲状腺機能・副腎皮質機能・糖代謝の調節機構を中心に取り組んでいます。

○小児集中治療(PICU) グループ

当院は、高度急性期医療、標準的医療を基盤とした高度先進医療を掲げており、2021年1月には小児医療を横断的に行う「こども医療センター」が開設されました。小児がん拠点病院として小児がん患者をはじめ、神経、免疫・アレルギー、循環器、内分泌代謝疾患を基礎疾患とする重症例も多く診療しています。また、肝移植や肺移植をはじめとした外科手術においても小児症例は多く、ICUでは日常的に小児患者の集中治療管理が行われています。2021年4月に小児科内に小児集中治療グループを編成し、小児科患者のみならず、外科系各科の小児患者の集中治療管理の支援を行っています。また、病棟(こども医療センター)とも連携し、症状悪化時にいち早くそれを察知しICU管理につなげる役割も担っています。

【専攻医研修紹介】

専攻医研修は計3年間=36ヶ月

そのうち大学研修が6~12ヶ月、研修関連・協力病院での研修が24~30ヶ月

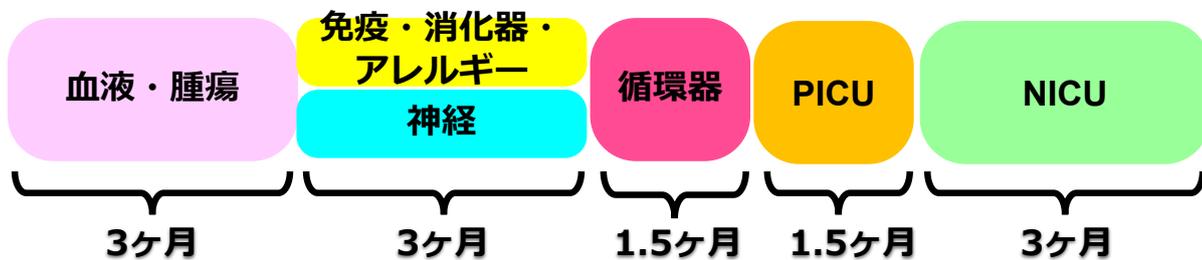
京大小児科の関連・協力病院は、近畿6府県を中心に倉敷市や静岡市にも分布

主な研修関連・協力病院

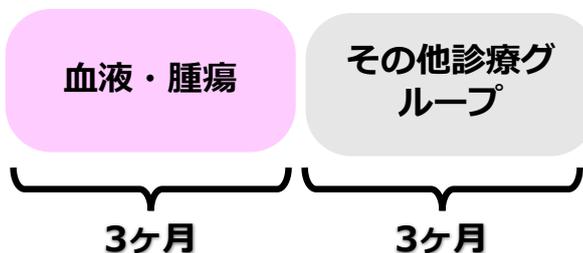
京都府：	滋賀県：	大阪府：	和歌山県：
京都医療センター	滋賀県立小児保健医療センター	北野病院	日赤和歌山医療センター
京都桂病院	彦根市立病院	大阪赤十字病院	
医仁会武田総合病院	高島市民病院	済生会中津病院	奈良県：
国立病院機構南京都病院	公立甲賀病院	市立岸和田市民病院	天理よろづ相談所病院
洛和会音羽病院	大津赤十字病院	国立循環器センター	
日本パプテスト病院			その他：
三菱京都病院	兵庫県：		倉敷中央病院
宇治徳洲会病院	兵庫県立尼崎総合医療センター		静岡県立こども病院
	神戸市立医療センター中央市民病院		
	西神戸医療センター		

大学研修は以下のような各診療グループをローテーションする事で、様々な症例を経験できるようなシステムになっている。

研修期間が12ヶ月の場合



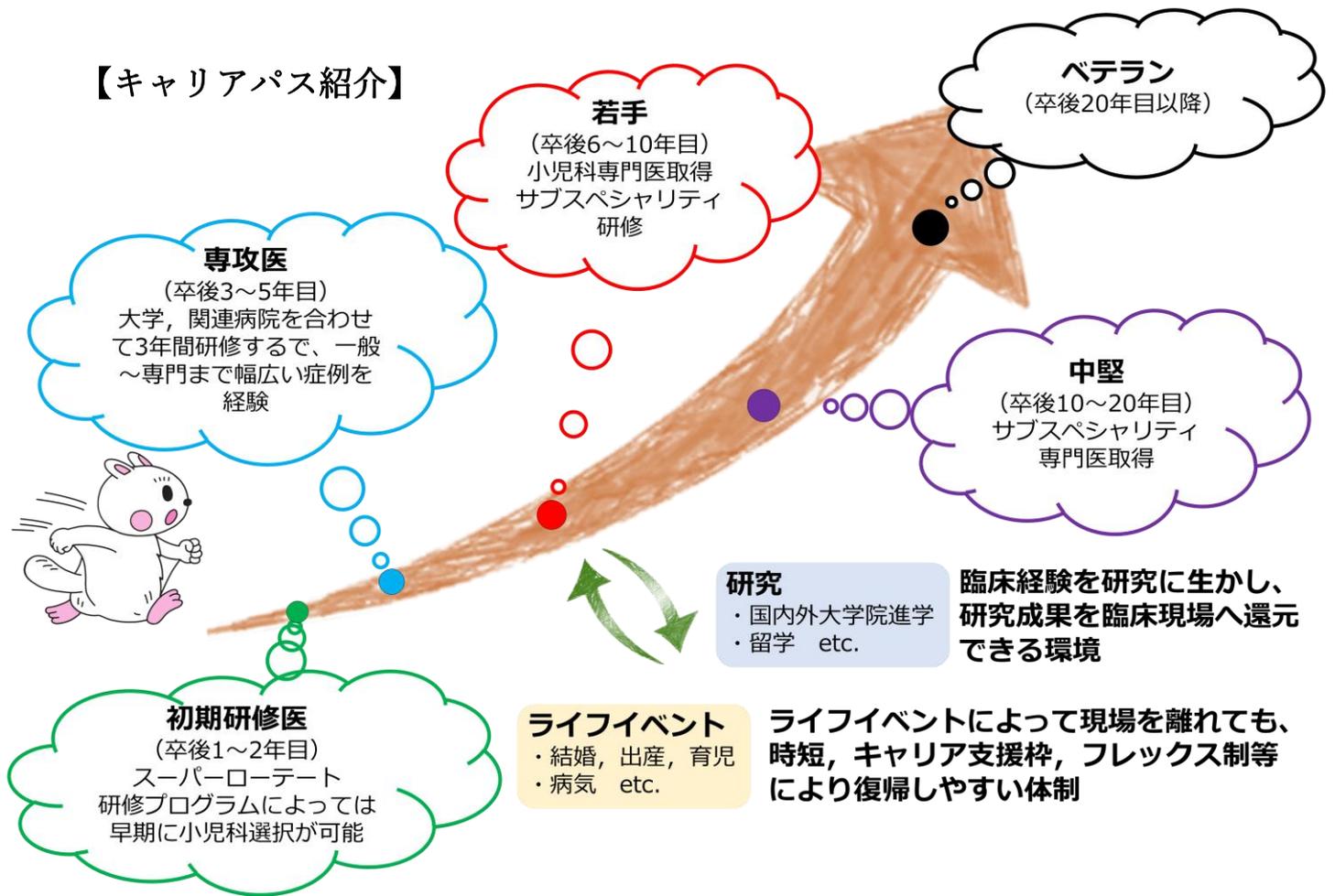
研修期間が6ヶ月の場合



図で示した通り、原則1グループに所属するローテーション研修を基本としつつ、個人の希望に応じて、2グループで同時に研修を行う事も可能です。

研修時には是非医局長、病棟医長と御相談下さい！！

【キャリアパス紹介】



初期研修医：

スーパーローテートを基本としながら、研修プログラムの選択によっては1年目から小児科研修を選択したり、専攻医研修に先駆けて2年目からまとまった小児科診療を経験する事も可能。

専攻医：

本格的な小児科研修期間。この期間に将来のサブスペシャリティを絞り込んでいく事が多く、経験できない疾患分野はやはり選択しにくくなる傾向にあるため、診療グループの充実度に一定左右。

若手：

専攻医研修を終えて小児科専門医受験資格を得る。小児科専門医は小児科における内科認定医のような位置づけで、これをベースに各サブスペシャリティの専門医・認定医資格の道が開ける。グループ診療の中心となって業務に当たりつつ、自身のサブスペシャリティ研修を行う。

中堅：

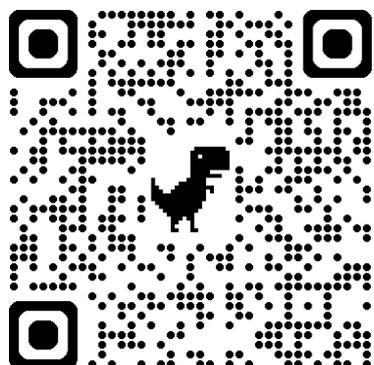
サブスペシャリティの専門医取得を進める時期。グループ診療の中でも指導的立ち位置となり、

ベテラン：

グループ診療に留まらず、診療グループそのものや小児科全体の中でも指導的立ち位置となる。

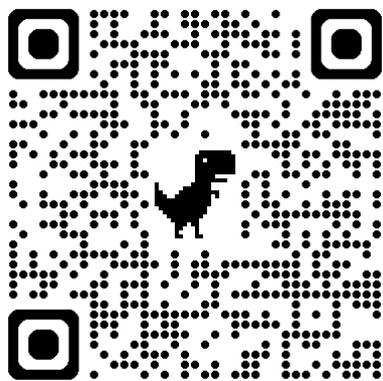
【医局説明会紹介】

- 小児科医局説明会 対象：医学生，初期研修医
3月8日（日） 13:30～17:00 現地・WEB ハイブリッド開催



- 第7回スキルアップセミナー2026 対象：初期研修医
5月23日（土） 10:00～17:00 現地開催

- 第8回スキルアップセミナー2026 対象：初期研修医
7月4日（土） 10:00～17:00 現地開催



それぞれ参加ご希望の方は、左記QRコードからお申し込み頂くか、担当者もしくは下記までお問い合わせ下さい。

連絡先：加藤 格 e-mail: itarkt@kuhp.kyoto-u.ac.jp

TEL: 075-751-3290

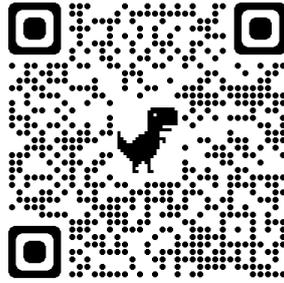
【ホームページ/SNS 紹介】

小児科ホームページに加え、公式で Facebook, Instagram を運営しています。
是非ご覧ください！！

ホームページ



Facebook



Instagram



@KYOTO_UNIVERSITY_PEDIATRICS

そして自分自身の未来のために

未来の
こどもたち
のために

対象：学生・初期研修医
現地&Web同時開催



2026年度 京都大学小児科専門医 プログラム説明会

ここがポイント

1 研修プログラムについて詳しくきける！

2 キャリアパスや研究の話も聞ける！

3 若手のみの座談会もあり！

日時

3 / 8 (日)

13:30-17:00

@京都大学医学部附属病院

参加希望の方はQRコードから申し込むか、
下記までご連絡ください。
詳細をお送りいたします。



説明会責任者 加藤 格

✉ itarkt@kuhp.kyoto-u.ac.jp

☎ 075-751-3290

(平日のみ)

説明会后、夕食会もあります。
ご参加お待ちしております！



主催 京都大学医学部附属病院 小児科
共催 京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター



第7回 **5/23 (Sat.)**

第8回 **7/ 4 (Sat.)**

10:00 ~ 17:00

両日とも同じ内容での開催です



京都大学医学部附属病院
クリニカルシミュレーションセンター

動きやすい服装でお越しください
昼食はご用意します
終了後、懇親会も開催します!



やってみよう!
小児の挿管, CV挿入, 骨髄針



高性能シミュレーターで実践!
専門医に学ぶ心臓と腹部のエコー



VR でリアルに体験!
小児急変シミュレーション



赤ちゃんの蘇生と呼吸管理
こんな時どうする??



より伝わる患者家族への説明
説明が上手くなるスキル、教えます!

京都大学病院小児科では、小児科医を目指す初期研修医を対象に
実技を中心としたスキルアップセミナーを毎年開催しています。
初期研修ではあまり経験することのない小児患者への処置を
ここで体験して後期研修にのぞみましょう!

お申し込みはこちらから



京都大学医学部附属病院
小児科

お問い合わせ：加藤 格 e-mail : itarkt@kuhp.kyoto-u.ac.jp